

TACT経営研究会40周年並びに TACTグループ中央研修センター建立について

私の熱い思い



税理士法人TACT高井法博会計事務所
TACTグループ関連13社代表
会長 税理士 高井 法博

当初、TACT経営研究会40周年記念行事は本年8月24日の総会と同時期に行い、TACTグループ中央研修センターの開所式は10月2日を計画していたが、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、やむを得ず両行事を併せて10月2日に開催することとした。この機会に今から40年前のTACT経営研究会の設立と、TACTグループ中央研修センターを建立した私の想いを述べさせていただくことしたい。

一、TACT経営研究会創設の私の想

このTACT経営研究会は高井会計

を創業して3年目、今から40年前の昭和56年6月30日、岐阜グランドホテル12階のローズルームにて、お客様の7割にあたる37名の方に趣旨に賛同をいただき、設立総会を開催し発足した異業種交流会である。この会の設立の意図は、私自身は31歳で開業し、お客様のほとんどは、まだ30代、40代の創業間もない経営者で個人事業が主体であった。その多くは売上高・利益・人員も少なく、「人」や「物」「金」「情報」等のあらゆる経営資源が弱体で、問題を多く抱えていた。これについては、かつて事務所機関誌「一期一会」でお客様の実情について次のように触れている。

「創業から3年程経ち、お客様も徐々に増え、その経営者の誰もが自らの事業の生き残りや発展を強く願ひ、休日もなく、朝早くから夜遅くまで必死に血の滲むような努力を続けておられる。それだけやっても固定費を賄うだけの限界利益が確保できず、多くの給与も払えず、格好よい建物や設備もない。就業規則等もなく、知名度の低い中小零細企業であるが故に優秀な人材が集まらない。たまに採用できても中途採用で、前職での悪いクセがついており、結局育たず定着しない。日々次々と起こる神経を逆撫でするような問題に翻弄され、モグラ叩きのような場当たり的対応で神経をズタズタにし、砂を噛むような悶々とした殺伐感の中で、多額の借金の返済や支払手形を期日に落とすことに追われ、社員や家族の生活を守らんがために、必死に昼夜を問わず歯を食いしばって頑張っていたのが中小企業や私自身の現実の姿であった。」と、当時記している。

額に汗し、必死に働くが、悲しいかな経営についての勉強も浅く、経営の原理原則を知らないがために、経営が下手で生産性も低い。これら問題の解決策を一応提示させていただいてはいたが、熱意があっても私自身の能力・経験の不足で、適切な解決策を見出せない事案も多く、結果は惨めなものであった。そのため、何とかお役に立ちたいと必死に勉強した。また、考えてみれば当社はおお客様の財務、経営状況、家庭環境、極論すればかまどの灰まで解る立場にある。縁あって関与していただいたお客様は、当事務所の経営理念、私自身の考え方、提供サービスの内容等をしつこく詳細にお話しし、ご了解をいただいたお客様ばかりである。そこで私はお客様の中で理解していただける、ポジティブな人格であるお客様に集まっていたいただき、「高井会計と税務・会計業務を委託するお客様」という関係だけでなく、経営者同士共通する経営上の様々な悩みや問題を話し合い、共に悩み、考える勉強会

を作りたい。また、その問題解決のための適切な講師を招いて講演会等を開催し、自ら解決策を見出し、初代会長をお願いした長屋鉄美様が中心となっていた。TACT経営研究会が発足した。さらにこの会には、私の人脈で医師・弁護士・弁理士・不動産鑑定士・司法書士・土地家屋調査士や、大学教授・元官僚等、親身になって様々な問題に助言がいただける実力ある方々に顧問をお願いした。以来40年経った。その間ほぼ毎月一回の月例会(勉強会)を開催し、現在までに400回近い各界の本物の超一流の講師をお招きしてきた。また、年一回タイムリーな目的とテーマを挙げて国内・国外への研修旅行を企画・開催する等、多種多様な活動を展開してきた。このような活動を通じ、親しくなったお客様同士が、経営者でしか理解し合えない悩みを相談し合うなど厚い信頼関係を形成し、その延長線上でお客様同士の取引が始まるなど、共に成長し発展

するソウルメイト(心の友)「心友」・血縁的集団として今日に至っている。互いに切磋琢磨してきた結果、国税庁が発表する全国の企業の黒字割合は、現在34.7%だが、高井会計のお客様の黒字割合は70%を超え、特にTACT経営研究会の会員は82.2%と全国平均の2倍を超える黒字率となっている。毎月の例会をはじめTACTグループが主催する勉強会への出席率とこの黒字企業割合は正比例している。「人は勉強し、知識や情報・考え方を磨けば磨くほど正しい判断と行動ができる。」40年間にわたり歴代の会長・役員の方々のリードと、会員が呼応し「共に学び、共に成長・発展する」ことを求め、学び続けてきたからこそこの結果である。この設立の理念をもとに、未来永劫皆様と一緒に愚直に学び続け、素晴らしい企業と未来を自らの力で創り、社員やお客様、社会の発展に尽力していく会であってほしいと強く思う。

二、TACTグループ中央研修セン

ター建立 私の想

企業の成長は「人の成長」と「資本の成長」である。なかでも人の成長は企業の成長に不可欠で、極論すれば「人さえ揃えば何でもできる。」と言っても過言ではないと思う。また当社の経営理念の中に「お客様の「情報発信基地」になる」がある。「人は知っている範囲内で考え行動する。知れば知るほど良い判断ができる。」

また学生時代、会社員時代、働きたがら独学で税理士試験を目指した時、勉強しなかつたら自分の人生は中途半端に終わると、怠惰な自分、数々の誘惑と戦い必死に勉強に励んだ結果、「勉強すればするほど良い点が取れる」ことを経験の中から体得した。開業してからも自らの勉強を第一とすると共に、社員にも大変な時間、予算を組み、またお客様にも勉強していただけるように社内170人収容できる研修室を設け、さらに年に数回はホテル等で泊まり込み合宿の勉強会を行ってきた。しかし、泊まり込み合宿について

は、都合のよい日程をとることにいつも苦労をした。そんなことから何年も前から宿泊施設付きの研修施設を取得したいと思っていたが、今回本社から車で3分の環状線沿いに土地を取得し念願の「TACTグループ中央研修センター」を建立することができた。この建設の目的は①TACTグループ13社の経営陣・社員の徹底した育成②お客様の経営者・社員の育成にも活用いただき、お客様企業の継続・発展に貢献したい。③困難ともいえる人口減少時代を迎え、外国人の活用は不可欠と考え外国人の受け入れとその戦力化のための研修を行い、企業の最大の悩みの一つである「人財の採用と育成」の支援を行なおうと思ったからである。この中央研修センター建立は、TACT経営研究会の設立と目的は同じで、当TACTグループとお客様の継続・発展のための会・施設であり、徹底活用を是非してすばらしい会社を共に創っていただくことを熱望している。